

高温続く！出穂までは「間断かん水」「飽水管理」を徹底！ 斑点米カメムシ類の発生量多い！対策は万全に！

やまがた温暖化対応米づくり日本一運動本部

◎今後の気象

7月17日発表の2週間予報（気象庁）では、今後も平年より気温が高い日が続き、特に最低気温が高い日が多い見込みです。

◎生育概況

7月17日現在の平坦部の「はえぬき」の生育は、平年と比べて、草丈は短く、茎数、葉数はやや多く、葉色は平年並みとなっています。「つや姫」「雪若丸」の生育も同じ傾向です。

県の試験研究機関の調査において、出穂期は「はえぬき」「雪若丸」「つや姫」のいずれも、平年より早まる予想です。

表1 「はえぬき」「つや姫」「雪若丸」の生育（7月17日）

品種	項目	調査値	平年値	平年比・差
はえぬき	草丈(cm)	64.2	68.9	93 短い
	茎数(本/㎡)	619	591	105 やや多い
	葉数(枚)	11.8	11.5	0.3 やや多い
	葉色(SPAD)	41.3	41.3	0.0 平年並み
つや姫	草丈(cm)	69.5	71.4	97 やや短い
	茎数(本/㎡)	586	536	109 多い
	葉数(枚)	11.6	11.3	0.3 やや多い
	葉色(SPAD)	38.3	38.2	0.1 平年並み
雪若丸	草丈(cm)	62.1	64.9	96 やや短い
	茎数(本/㎡)	676	643	105 やや多い
	葉数(枚)	12.1	11.9	0.2 平年並み
	葉色(SPAD)	41.3	41.3	0.0 平年並み

※ 各農業技術普及課の調査結果を平均した値

表2 予想出穂期^{※1}(7月17日調査)

品種	場所	出穂期（平年差）	
		予想	平年 ^{※2}
はえぬき	山形市	8/1 (±0日)	8/1
	鶴岡市	7/28 (-3日)	7/31
つや姫	山形市	8/4 (-4日)	8/8
	鶴岡市	8/5 (-3日)	8/8
雪若丸	山形市	7/31 (-1日)	8/1
	鶴岡市	7/28 (-3日)	7/31

※1 農業総合研究センター調べ

※2 過去7か年(R1-R7)の平均値

◎当面の技術対策

出穂前まで稲体の消耗を防ぎ、根の活力を維持します。生育状況を観察し、きめ細やかな栽培管理を行いましょう。

1 出穂直前まで「間断かん水」「飽水管理」を徹底！

出穂直前までは間断かん水もしくは飽水管理を行って、土壌を酸化的に保ち、根をしっかり張らせながら活力を維持します。水をためっぱなしにすると、土壌の還元が進んで根へのダメージが大きくなります。

2 出穂後・開花期は花水！穂揃後もきめ細かな水管理で根の活力を維持し、登熟を向上！

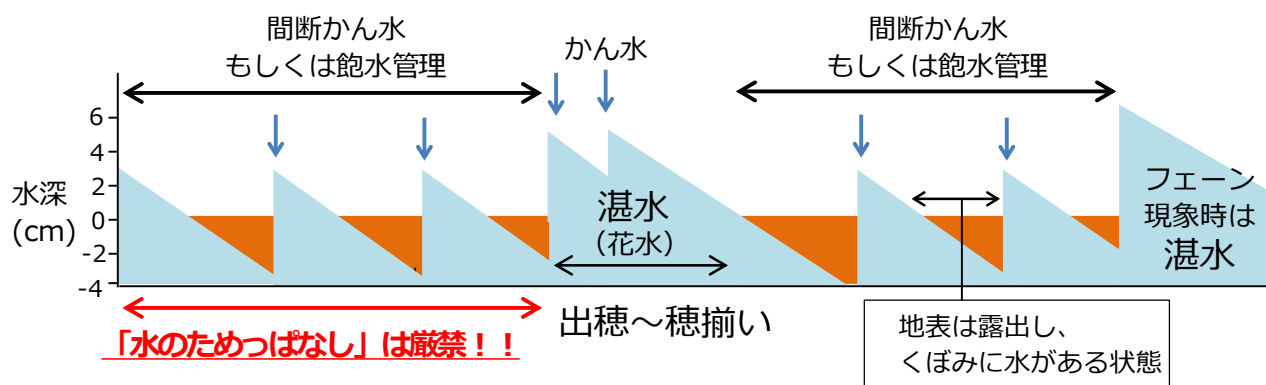
イネは、受精・開花期に最も水分を必要とします。圃場をよく観察して、出穂直前から、穂揃期までは湛水状態を保ちます。

穂揃後は、間断かん水や飽水管理に移行して、土壌を酸化的に保ち、根の活力を維持しながら登熟を高めます。

出穂後6～10日頃の高温が、最も胴割粒の発生に影響します。高温が続く場合は、用水の効率的な利用に努めつつ、冷たい水との入れ替えで、水温・地温が低下するように管理します。

台風等の影響でフェーン現象の発生が予想される場合は、湛水して稲体を保護します。

出穂前後の水管理



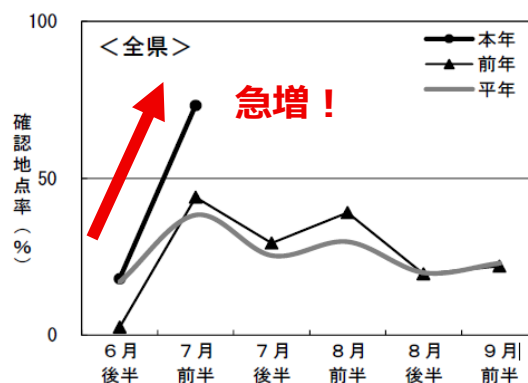
3 斑点米カメムシ類の発生量が多い！ ～基本防除の徹底を～

7月2日付けで斑点米カメムシ類の注意報が発表されています。

斑点米カメムシ類の「アカスジカスミカメ」はノビエやホタルイ等に産卵して増殖するので、本田の残草対策も万全に行います。

斑点米カメムシ類の薬剤防除は、出穂状況をよく確認して、穂揃期及び穂揃期の7～10日後の2回を基本とし、地域で時期を合わせて一斉に防除すると効果的です。

出穂期前後にやむを得ず草刈りを行う場合は、水田の薬剤防除直前に実施します。



水田内の斑点米カメムシ類のすくい取り状況

4 葉いもちの発生が確認されています ～早期発見・早期防除～

病害虫防除所の調査において、葉いもちの発生が確認されています。葉いもちの発生・拡大は、穂いもちの多発につながり、品質・収量に大きな影響を及ぼします。圃場をよく見回り、早期発見、早期防除を徹底しましょう。

夏の熱中症等声かけ期間

お互い気を配り、声をかけあって熱中症事故防止！

